## 博

地域創造学部 地域創造学科

iroshi Yamamoto [interview:八木 真奈美/壽崎 達也/酒井 智広]

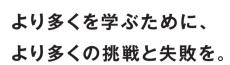
Maga</,

STOWED Interview mon

D

Saku

v<sup>fisio</sup>vinu



文化・文化創造コース」の3コースから成る。 活性化していくかがテーマとなっている。 いずれも都市部または地方で、地域をどう 創造コース」「観光・まちづくりコース」「都市

リアが主な研究・活動の場になっていきま 学科による区別は無く、「地域経済・事業 「本学のある茨木や北摂地域、京阪神エ

すが、ここにも都市部から小さな集落まで、

持続可能な社会へと導く 域の新たな価値を創造

究め、実社会でその役割を担える知恵と やすい国・社会であり続けられるかを問い くい他学部生も多いかもしれませんね。学 称で、何を学ぶための学部かイメージしに す。だから、まだまだ聞き慣れない学部名 国の私立大学で初めてのことだと思いま 術を身につけていくための学部です」。 ば、持続可能な社会、。どうすれば暮らし びのベースとなる考え方をひとことで言え 「地域創造学部」がスタートした。 「゛地域創造、を掲げる学部の創設は、

所でフィールドワークやプロジェクト型学習 発揮できる人へと育ってもらいたいですね」。 ね、卒業後、望む分野で即戦力として力を インターンシップなどの実践的な学びを重 つの成功例だと思いますが、より多くの場 ざまな取り組みが見られました。ここはひと 価値といえるレベルにまで引き上げる、さま というように、その土地の持つ良さを新たな ン造りが行われ、立派な名産品となっている、 る。また蒜山高原では山葡萄を原料にワイ 森林資源を活かしてエコ燃料と言われるバ もうまく地域創造できている所でしたね。 をはじめ、観光スポットも工夫・整備されてい イオマスの事業を軌道に乗せる一方で、のれ ん街として街並み保存がなされている勝山 「先日訪ねた岡山県真庭市などは、とて

この春から、本学の新たな学部として ろにいくつもあります」。

めに、他の地方へも積極的に出掛けて交流 を図っていく。 課題の多様性を知り、新たな視点を得るた 〝地元地域〟を拠点に経験を積みながら

ように、課題=学ぶための場は身近なとこ 摂地域の人口密度を比較して見ても、豊 中・高槻は約1万人/愉ですが、豊能郡能 勢町は約100人/愉と大きな差がある さまざまな生活圏があります。例えば北

授業を予定している。 多い面白い街だと思いますね」。 そしてもうひとつ、新しい形で行われる

リーを開くなど、新たな動きも絶えずあつ

て、ネットワークやコミュニティもしっかりと

たちが元の建物を活かしながら店やギャラ

分を残しながら、空掘商店街のように若者

形成されています。とても学ぶべきことの

るので、そこに参加させてもらおうと。高 りのお宅を巡回する活動や、地元商店街の れば、そんな場面はよくあることですから」。 下から教わることがあってもいい。社会へ出 というイメージがあるかもしれませんが、年 高校生から教わる、という感じになるはず していくので、チームワークが良く、考え方 校生とはいえ、代々上級生が下級生を指導 活性化などのボランティアに取り組んでい います。生徒たちが授業で、近隣のお年寄 ですね。学ぶ・教わる、には、年配の方から もしっかりしているんです。だからおそらく 「伊丹市の高校生と共に学ぼうと考えて

## 学びの起点となっていく そこで何を感じたかが

阪の上町台地を研究・活動のフィールドと していく予定だ。 新学部で担当する授業のひとつでは、大

1982年から追手門学院大学非常勤講師。85年より専任教員として本学に 赴任。人間学部長などを経て、2015年4月より地域創造学部副学部長。専門 はカント哲学。学外でもさまざまな委員を務める"世話人"。実地での体験・学び

エリアで、いわば、元・地元、。その歴史・文 地である大阪城から南は天王寺までつづく 「上町台地は、北は追手門学院・発祥の

と思います。それぞれの土地の持つ良さを発見したい、そ自分の住んでいる地域を、より魅力的に感じられる学部だ **^持続可能な社会、について考える地域創造学部。これは、**  とができるんです。そんな街の古き良き部

らしがまだまだ残っ からの街並みや暮 にありながら、古く クト』に取り組んで て『上町学プロジェ と、5年間にわたつ きました。大阪市内 化を再発見しよう